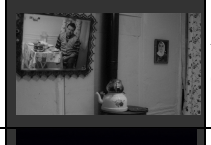
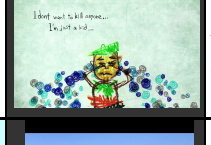
■京都国際インディーズ映画祭2013 【京都映像アワード2013・入賞作品リスト】

◎ 開催日時：2013年11月17日（日）：午後1時30分・開始

上映No.	イメージ	作品名	尺数	監督・制作者	内容概略
1		＜国山神事＞ （ドキュメンタリー）	28'	戸田博 （日本）	福井県の限界集落で廃れ行く神社で行われる最後の神事。福井市国山町に伝わる国山の神事は、かつては「ナルワイ」とか「タガヤシ」と呼び、毎年在家で3回と神社で1回の合わせて4回が行われていたが、村民の減少からは在家の神事を取り止め、神社で4年ごとに行うこととした。たった20軒、31人の集落。この村で暮らす古老たちの限りない願いと喜びの神事をドキュメント。
2		＜BENTEN＞ （ドキュメンタリー）	15'22″	ピエール・バルー （フランス）	画家・田上允克さん作品制作の姿勢と日常を追ったドキュメント。田上さんの人柄と独特な世界観の絵にどんどん引き込まれていく。身近な人たちの才能、生き方が、映像を通して気負いなく描かれていて爽やか。友だちならではのショットが生きている。
3		＜Gray Zone＞ （ドキュメンタリー）	12'39″	塚原真梨佳（20歳 （日本）	沖縄の諸問題は、出身者などの当事者が語る時、その重層性が垣間見える。グレイという作者の表現は、その心情を端的に表している。賛成か反対か、抵抗か従順か、自民党かそれ以外かといった二項対立では割り切れない現実が、沖縄島民にはあるのだ。オスプレイが普天間基地に配備される背景を、その後の展開を誰よりも敏感に察知していたのは沖縄島民だった。若い作者が、同世代に尋ねることばとその反応、あるいは自衛隊員でもある父親の意見が、とりあえずの真実として観るものを問う。★TVF2013　筑紫哲也賞
4		＜OPEN HEART＞ （ドキュメンタリー）	40'	Kief Davidson （イタリア）	★日本初上映！アカデミー賞ノミネート作品＜ベストドキュメント短編部門＞ 8人のルワンダの子供たちは、スーダンでリスクの大きい心臓手術を求めている。彼らは家族と別れ、生きるか死ぬかの旅が始まる。エマニュエル博士（ルワンダ政府心臓専門医彼が若い患者とイタリアのジーノ・ストラーダ博士（サラム・センターのヘッド外科医）が命を救うための戦いを追う。そして、その人も彼の病院を維持するために戦わなければならない。この映画は、サンダンス研究所、Skoll財団とトライベカ・グッチ財団の支持で製作された。HBOドキュメンタリー映画。ARTEドイツとフランスによる共同制作。
5		＜あそぶ＞ （高校生作品）（ドキュメンタリー）	9'51″	澤田彩織 （日本）	勉強、課題制作、進路決定、様々なことに追われ、“あそぶ”ことを忘れかけた「映像芸術科ビデオ表現専攻3年」の仲間たち。そんな彼らを巻き込んで、おもいっきり遊んでみた。絵を描いたり、ダンスをしたり、観邪気な笑顔が可愛らしい。自分の周りには、こんなに素晴らしい友達がいる。この作品を制作して、あらためて大切な友だちの存在を実感することができた。あなたの周りには、こんなに素敵な友達がいますか？　（澤田彩織・作者）
6		＜into 日常＞ （高校生作品）（ドラマ）	13'36″	阪本奈央 （日本）	日常の中にあるちょっとしたおもしろさを描いたオムニバス作品です。普段の生活の中でよく目にする「あるある」と思われるものから、少し注意して観察しないと気づかないものまで、私がおもしろいとおもったことを映像化してみました。つまらないと思われる日常生活の中にも、少し視点を変えれば見つかる『おもしろい』がたくさん転がっていると思います。この作品を観た人にはぜひ日常の中でおもしろいことを探してほしいです。（阪本奈央・作者）
7		＜きっと世界は素晴らしい＞ （高校生作品）（ドラマ）	15'	川満佐和子 （日本）	高校の卒業制作で制作したドラマ作品。言葉にできない気持ちや感覚も誰かに届くような、誰かに響くような、そんな素晴らしい奇跡のような瞬間が世界にはあるはずだと信じて。三年間一緒に映像と向きあってくれた仲間たち、協力してくれた友人、後輩、先生がたに心から感謝します。（川満佐和子・作者）
8		＜BUHAR / 蒸気＞ （ドラマ）	12'	アブドゥラハム・オネル （トルコ）	静寂な部屋はテレビの音だけ。そしてカメラは、ゆっくりと食事の用意をする女を捉える。ワンテイクのみで撮られたこの作品は、長年蓄積された夫婦間のすれ違いを見事に文化背景の文脈で構成し、息をのむエンディングであぶり出す。
9		＜おくりもの＞ （ドキュメンタリー）	8'12″	佐藤好子（80歳） （日本）	市民映像の歴史を、この家族の小さな記録の中に観ることが出来る。当時は多くの映像マニアがこうした日常を送っていたに違いない。夫の映像制作に巻き込まれる家族にとっては大迷惑な話であるが、この作品にあるように、個人映像史の重要な1ページになっている。美しく微笑ましい家族の関係に感動しながら、映しだされる多くの映像機器が、その発達史の重要な記録であることがわかる。★TVF2013　市民賞（佐藤博昭）
10		＜限界集落に命の糧と元気を運ぶ∽二人三脚の移動販売車∽＞ （ドキュメンタリー）	16'55″	内田一夫（76歳 （日本）	日本各地で進行中の高齢化・過疎の問題は、行政の一律の対応で解決出来るのだろうか？　地域のことを我が身のことのように考える行商の夫婦の行為は、小さいけれども最良の解決策のように見える。「繋がり」や「絆」といった言葉が安売りされている今、この作品に描かれる「関係」は重要な一里塚となるはずだ。しかし、この夫婦に掛かる負荷の重さが、問題の深刻さを浮き彫りにしている。「頑張って」などと簡単には言えない現状がそこにはある。★TVF2013 ビデオ大賞受賞
11		＜Ninja & Soldier / 忍者と兵隊＞ （アニメーション）	10'	平林勇 （日本）	世界で確認されているだけで、25万人もいる言われている「子ども兵」。18歳未満の子どもたちが、この世界のどこかで、今も戦闘に従事させられているのです。「子ども兵」が、「子ども」時代を取り戻すために、今、私たちにできることがきっとあるはず。 テラ・ルネッサンスの子ども兵問題への取り組みが、ヒントとなって、製作された短編映画『NINJA&SOLDIER』。ベルリン国際映画祭にノミネート。アニメーションで、伝わってくる子ども兵問題の悲しさと、どんな状態でも失われることのない人間性の暖かさに、触れることができる。
12 ●特別上映 （最終上映）		＜変身＞ （ドキュメンタリー）	63'	堀 潤 （日本）	ジャーナリスト堀潤が、いずれも過酷なメルトダウンを起こした福島第一原発事故（2011年）、米国のスリーマイル島原発事故（1979年）、そしてサンタスサーナ原子炉実験場事故（1959年）を取材。マスコミ報道されない半世紀の間に起きた日米のメルトダウン事故から見えてくる真相とは？時と共に風化されていく原発事故、しかし、依然として絶えない放射線被曝による健康被害の実態とは？忘れてはならない日米メルトダウンの現実を突きつける渾身のドキュメンタリー。